

●薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）と本書中の関連記載箇所の対応表

SBO番号	到達目標	関連記載箇所
A 基本事項		
A-(1)-3-1	1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	1-1、1-6、1-7
A-(1)-3-2	2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。	1-2
A-(1)-3-3	3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	1-3、4-1、4-2
A-(1)-3-4	4. 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	1-4、2-1
A-(1)-3-5	5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	5-2
A-(1)-3-6	6. 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	1-5
A-(1)-3-7	7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	1-5
A-(3)-1-5	5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)	5-1
A-(3)-1-6	6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)	5-1
A-(3)-1-7	7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	5-1
A-(3)-1-8	8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	5-1
A-(3)-1-9	9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	5-1
B 薬学と社会		
B-(2)-1-8	8. 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。	3-2
B-(2)-2-10	10. 健康被害救済制度について説明できる。	1-5
E 医療薬学		
E1-(4)-1-2	2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。	1-1
E1-(4)-1-3	3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害	5-3、5-4
E1-(4)-1-4	4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)	1-5
E3-(1)-7-2	2. 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)	5-6
F 薬学臨床		
F-(2)-2-1	1. 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	5-4
F-(2)-6-1	1. 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。	2-1

F-(2)-6-2	2. 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。	2-4、2-5
F-(2)-6-3	3. 前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)	2-2、3-1
F-(2)-6-4	4. 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	4-3
F-(2)-6-5	5. 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)	4-3
F-(2)-6-6	6. 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	4-3
F-(2)-6-7	7. 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	1-5、5-5
F-(2)-6-8	8. 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)	2-4、2-5
F-(2)-6-9	9. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。	2-3
F-(2)-6-10	10. 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)	2-2、3-1
F-(2)-6-11	11. 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)	4-1、4-2
F-(2)-6-12	12. 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)	4-3
F-(2)-6-13	13. 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)	4-3
F-(2)-6-14	14. 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)	4-3
F-(3)-2-6	6. 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)	4-2
F-(3)-4-1	1. 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	5-3
F-(3)-4-4	4. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)	5-3
F-(4)-1-3	3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	4-4
F-(4)-2-1	1. 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。	4-4
F-(4)-2-2	2. 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)	4-4